

## 寄付金募集趣意書

### ～世界最高水準のイノベーション拠点の形成を目指して～

2019年3月、軟エックス線領域で世界最高水準の性能を誇る『次世代放射光施設』の建設が、東北大学青葉山新キャンパスで開始しました。

放射光施設は、物質のナノレベルの構造等をみる巨大な顕微鏡の役割を持つ研究施設です。これまで放射光施設を用いて、低燃費タイヤやリチウムイオン電池、インフルエンザ治療薬等の開発が行われ、放射光施設は我が国のみならず世界の産業発展に大きく貢献してきました。とりわけ、軟エックス線領域をターゲットにした『次世代放射光施設』は産業利用のニーズが高く、当該施設の周りに企業や学術の研究拠点が集積する「リサーチコンプレックス」の形成が期待されています。

このように、『次世代放射光施設』は、東北地域に本格的なイノベーション拠点の形成を促すのに止まらず、ポストコロナ時代の我が国産業の成長、そして我が国が今後も先進科学立国として世界をリードしていくためにも必要不可欠な施設であることを私たちは確信しております。

幸い東北では、イノベーション創出に向けた様々な取り組みが実際に展開されています。2015年2月に東北大学は、大学発ベンチャー対象の投資会社・東北大学ベンチャーパートナーズ(株)を設立し、2020年10月には第2号ファンドも組成されました。また、2018年12月の仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会の設立に加え、東北地域ベンチャー支援エコシステム連絡協議会（東北・新潟の国立大学が参加）の設立、東北大学と仙台市によるスーパーシティ構想の検討も進められています。東経連ビジネスセンターも、放射光等加速器に関わる新産業創出支援に取り組んでおります。

当財団は、こうした地域における様々な取り組みを活かし、全国の産学官金と手を携え、宮城県、仙台市、東北大学、東北経済連合会をパートナーに、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構との協定（2019年9月）に基づいて、『次世代放射光施設』の実現に邁進する所存でございます。

しかしながら、『次世代放射光施設』の実現には、更なる建設資金の積み上げが必要となります。つきましては、誠に恐縮ではございますが、趣旨にご賛同いただき、格別のご支援、ご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

2021年10月

一般財団法人光科学イノベーションセンター

理事長 高田 昌樹